

文化貢献者の郵便切手に登場した統計と縁のある人々

昭和24年（1949年）から昭和27年までの間に文化貢献者の肖像を画題とする郵便切手が発行されました。18種¹のうち4種が統計と縁のある人として統計図書館コラムに登場している人でした。ここに当該切手の発行に係る官報告示を紹介します。

【画像】官報（①～③；国立国会図書館デジタルコレクション）、切手：筆者所蔵

①**福沢諭吉**：我が国で初めてオランダの統計書を翻訳して『万国政表』を発刊。後の著書『学問のすすめ』、『文明論乃概略』でも統計の有用性を主張。



◎郵政省告示第十九号
郵便法（昭和二十二年法律第百六十五号）第三十三條の規定に基づき、昭和二十五年二月三日から文化貢献者の肖像を画題とする次の様式の八円郵便切手を発行する。
昭和二十五年一月二十六日
郵政大臣 小沢佐重喜

意匠 福沢諭吉
刷色 オリーブ色
印面 縦 二七ミリ
横 二四ミリ

【一口メモ】
発行日は福沢諭吉の祥月命日にあたります。



見本

統計図書館コラム【人物編】【No.0001】福沢諭吉
<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column0001.pdf> (PDF : 684KB)

②**森鷗外**：統計学の本質に関する歴史的論争に発展した統計の訳字論争を展開。



◎郵政省告示第二百三十九号
郵便法（昭和二十二年法律第百六十五号）第三十三條の規定に基づき、昭和二十六年七月九日から文化貢献者の肖像を画題とする次の様式の八円郵便切手を発行する。
昭和二十六年七月六日
郵政大臣 佐藤 栄作

意匠 森鷗外
刷色 褐赤色
印面 縦 二七ミリ
横 二四ミリ

【一口メモ】
発行日は森鷗外の祥月命日にあたります。



見本

統計図書館コラム【人物編】【No.0006】森鷗外
<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column0006.pdf> (PDF : 629KB)

¹ 野口英世（医学者）、福沢諭吉（著述家、教育者）、夏目漱石（文学者）、坪内逍遙（小説家）、市川團十郎（歌舞伎役者、九代目）、新島襄（キリスト教の教育者）、狩野芳崖（日本画家）、内村鑑三（キリスト教思想家）、樋口一葉（小説家）、森鷗外（小説家、軍医）、正岡子規（俳人、歌人）、菱田春草（日本画家）、西周（哲学者）、梅謙次郎（法学者、教育者）、木村栄（天文学者）、新渡戸稲造（教育者）、寺田寅彦（物理学者）、岡倉天心（美術運動家）（切手の発行順）、【注】マーカーの色は、中村宗文「文化切手の発行について」（高久茂「切手になった日本文化人」所収）による区分（■：学術関係、■：文化関係（教育、思想、評論）、■：芸術関係）

③西周にしあまね：西洋学問の全体像把握の一環として、留学して我が国で初めて統計学について学び、これを我が国に移入。

様式



意匠 西周
刷色 暗いオリブ色
印面寸法 縦二七ミリ 横二四ミリ

◎郵政省告示第十八号
郵便法（昭和二十二年法律第六十五号）第三十三條の規定に基づき、昭和二十七年一月三十一日から文化貢献者の肖像を画題とする次の様式の十四郵便切手を発行する。
昭和二十七年一月二十四日
郵政大臣 佐藤 榮作

【一口メモ】
発行日は西周の祥月命日にあたります。



見本

統計図書館コラム【人物編】【No.0003】津田真道・西周
<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column0003.pdf> (PDF : 770KB)

④新渡戸稲造：ドイツに留学して統計学も学ぶ（明治20年^{1887年}～）。国勢（国の情勢）を調べることは国家の統治にとって必然の思想と主張。

様式



意匠 新渡戸稲造
刷色 灰味青緑色
印面寸法 縦二七ミリ 横二四ミリ

◎郵政省告示第四十七号
郵便法（昭和二十二年法律第六十五号）第三十三條の規定に基づき、昭和二十七年十月十六日から、文化貢献者の肖像を画題とする次の様式の十円郵便切手を発行する。
昭和二十七年十月十五日
郵政大臣 佐藤 榮作



見本

昭和27年10月29日付け官報

正・誤
昭和二十七年十月十五日郵政省告示第四百七十一号の様式中意匠「新渡戸稲造」は「新渡戸稲造」の誤り。
郵政省官報報告主任

【一口メモ】
発行日は10月16日で、これは新渡戸稲造がカナダのビクトリアで逝去した日（現地時間：10月15日）を日本時間に換算した日に合わせたものと考えられます。

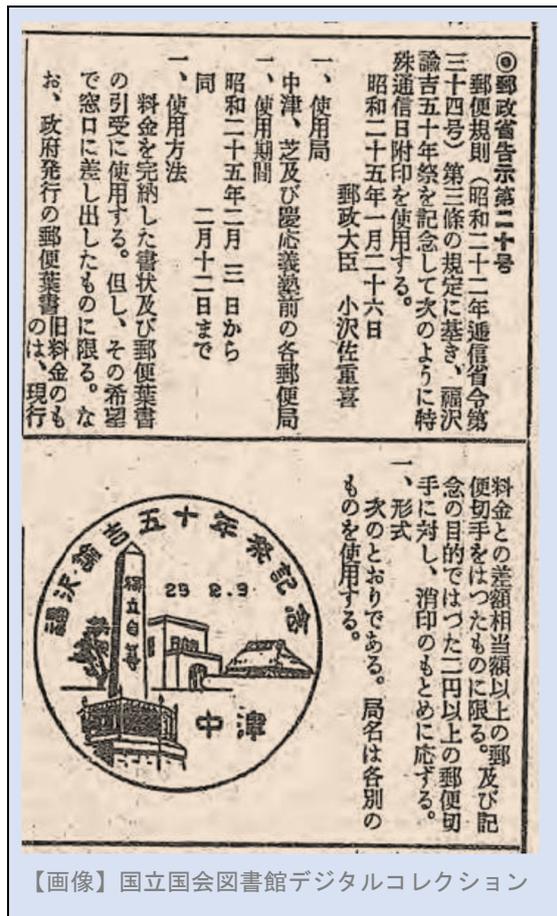
統計図書館コラム【雑学編】【No. 1004】国家の存するところ統計あり
<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column1004.pdf> (PDF : 602KB) ()
 統計図書館コラム【人物編】【No. 0009】阪谷芳郎 (2) 昭和の初めの全国統計大会と阪谷芳郎
<https://www.stat.go.jp/library/pdf/column0009.pdf> (PDF : 356KB)

【余談①】前掲の福沢諭吉の肖像を画題とする郵便切手の発行に係る告示の日の官報^{右の画像}には、福沢諭吉 50 年祭を記念して特殊通信日付印の使用に係る告示も掲載されていました。郵便切手の発行日と特殊通信日付印の使用開始日は、福沢諭吉の 50 年祭の節目にあたる祥月命日に合わせたものとみられます。

ちなみに、文化貢献者の郵便切手のシリーズの第 1 号（野口英世）の発行日は祥月命日（5 月 21 日）ではなく文化の日となっています。^{下の画像}



【画像】国立国会図書館デジタルコレクション



【画像】国立国会図書館デジタルコレクション

【余談②】

今回登場の西周と森鷗外は親戚です。統計 TodayNo.136（別記 2）で二人のエピソードを紹介していますので参照願います。

<https://www.stat.go.jp/info/today/136.html#bekki2>

【あとがき】

我が国の統計は、福沢諭吉を始めとする文化貢献者によって支えられ発展した面があることを改めて認識しました。

文化貢献者の肖像を画題とする切手の採用は、文部省とも相談し、郵政審議会で専門委員 15 名が推薦した 65 名のなかから、18 名が選定されたようです。その選定過程については、前掲の「切手になった日本文化人」に所収の寄稿からうかがい知ることができます。同書には郵政審議会専門委員をつとめた家永三郎氏の寄稿「文化切手主題人物の選定について」もあり、それによれば、各専門委員が適当と考える人を高点順に配列したところ、最高得点は、福沢諭吉であったとされ、福沢諭吉を選ぶことに誰しも異論のないところであった…とされています。福沢諭吉の偉大さを改めて実感しました。